

教科	種目	<b>意見書</b>	発行者
生活	生活		東京書籍

	着眼点	意見
1	(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の約束を QR コードや絵（具体）で示すことで、児童により分かりやすく理解させることができるようになっている。（上 P17）</li> <li>○観察カードの具体例があり、表現の仕方がよく分かる。また、大事なことがピックアップされていて、自分が育てている植物に関わらせて考える工夫がある。（上 P34・35）</li> <li>○学習の振り返りで、吹き出しで話す児童の発言を例にして自身の変容により気づくことができる。（上 P48・49）</li> <li>○上下巻全体に、小單元ごとの観点の評価基準を意識した記号（!・?・♡等）があることで、視覚的に何を意識して学べばよいかより分かりやすくなっている。</li> <li>○基礎の育成に向けて、吹き出しに問いかけがあることで、身近な生活に関わる見方・考え方がよりていねいに取り扱われている。（上 P18・19 下段）</li> </ul>
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イラストが対応していることで、1年時に学んだこととつなげやすくなっている。（上 P40・41、下 P2・3）</li> <li>○「スタートカリキュラム」に沿って、あいさつの仕方や友達との関わり方が写真をもとに分かりやすく説明されている。また、保護者に対して「育てほしい姿」を見せることで、家庭と連携して指導にあたることのできる工夫がある。（上 P1～13）</li> <li>○3年生の図画工作や社会、理科につながっていく内容がよくまとめられている。（下 P102）</li> <li>○児童の吹き出しから、問題解決のために幼児期の体験活動も想起させる工夫がされている。（上 P30）</li> </ul>
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○下段の吹き出しで、他の野菜を比較する発言があることで、さらに深い学びが実現できるようによく工夫されている。（下 P14・15）</li> <li>○自身の気づきを表現する具体例が吹き出しであることで、児童の発達段階に合わせた表現をする工夫がよくされている。（上 P70・71）</li> <li>○比べ方、例え方の例がイラストと解説で説明されていることで、気づきの質を高める工夫がよくされている。（下 P114・115）</li> </ul>
2	(1) ふるさとへの誇りと愛着を育む、ふるさと教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○故郷（飛騨）の伝統的な行事が下巻で紹介されており、地域と関わって学習できるようによく配慮されている。（下 P57）</li> <li>○昔から伝わる遊びをお年寄りの方と行う様子が生き生きと紹介されており、お年寄りと交流したいという思いにつながるようによく工夫されている。（上 P100・101）</li> </ul>
	(2) ICT を活用した学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタル絵本やデジタルアルバム等、ICT を活用した表現方法の例示が多く、多様な方法で表現できるようによく工夫されている。</li> <li>○撮影だけではなくタブレットに書いたり大型ディスプレイに投影したりと様々な場面で活用できるようよく工夫されている。</li> </ul>
	(3) 多様な学びを支援する教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○車椅子や外国人児童が学んでいる様子が多く、どの子でも学べる支援についてよく配慮されている。</li> <li>○家庭でも学習しやすいよう、QR コードを多く掲載しており、どんな環境の子でも学習できるようよく配慮されている。</li> </ul>
3	(1) 教科書の厚み、重量	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見やすく適度な重さである。</li> <li>○厚み重量ともに児童の負担にならない。</li> </ul>
	(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小單元名、安全指導（約束）、手洗い等を同じ位置に配置して、より見やすくなっている。</li> </ul>
	(3) 上記以外の使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末に、習慣や技能をより分かりやすくまとめた「かつどうべんりてちょう」を掲載している。</li> </ul>

教科	種目	<b>意見書</b>	発行者
生活	生活		大日本図書

	着眼点	意見
1	(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「見つける」→「ためす」→「もっと○○になるよう考えよう」→「つたえあう・生かす」のサイクルで繰り返し学ぶことにより、3つの柱がバランスよく学べる。</li> <li>○児童が自ら振り返り、自分の成長を実感できるワークシートがついている。(上 P127)</li> <li>○豊富な絵図、写真などで、視覚的に学習の見通しが持てる。</li> <li>○「web がくしゅうどうぐばこ」で、児童が見つけた生き物や植物をもとに自分で調べ活用することができる。(下 P114・115)</li> <li>○1年生の夏休み前まで「きもちマーク」を位置づけ、表情で自分の気持ちを振り返りながら自己表出することができる。</li> <li>○「自分発表会」等の自己評価の場面では、絵図や、ICTの動画等、多様なモデルを参考に、イメージを持ちやすいよう配慮されている。(下 P70・71)</li> </ul>
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年始の願いや、今年の意欲が持てるワークシートがあり、教科書に直接書き込めることができるよう工夫されている。(下 P6・7)</li> <li>○SDGsにつながる内容は、SDGsマークで都度示されている。(下 P49～51)</li> <li>○「はってん」マークで、もっと知りたいことや、深めたいことについて、学びを深めることができる。</li> </ul>
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○対話形式の吹き出しが豊富で、児童が対話のイメージを持ちやすいよう工夫されている。(下 P2・3)</li> <li>○児童が意欲的に取り組めるよう、すてきはっけんビンゴカードに直接書き込むことができる工夫がされており、児童が何を見つければよいか活動の視点を持ちやすい。(下 P42・43)</li> </ul>
2	(1) ふるさとへの誇りと愛着を育む、ふるさと教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家族との関わりが多く取り上げられており、写真や学習内容から様々な場面で家族と連携して取り組めるようによく工夫された構成になっている。</li> <li>○校外学習の時に地域の人と関わる写真やイラストを多く用い、地域には支えてくださる方がたくさんいることが理解できるようによく工夫されている。</li> </ul>
	(2) ICT を活用した学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習場面に ICT 活用の様子を多く取り入れ、どのような授業でも積極的に ICT を活用できるよう工夫している。</li> </ul>
	(3) 多様な学びを支援する教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登場人物に外国人児童がおり、多様な人が学習していることを感じ取れるよう配慮されている。</li> </ul>
3	(1) 教科書の厚み、重量	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見やすく適度な重さである。</li> <li>○厚み、重量ともに児童の負担にならない。</li> </ul>
	(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○上巻に、振り返りを促す「きもちマーク」を掲載している。</li> </ul>
	(3) 上記以外の使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○上下巻に、生活上必要な習慣や技能等をまとめた「がくしゅうどうぐばこ」を掲載している。</li> </ul>

教科	種目	<b>意見書</b>	発行者
生活	生活		学校図書

	着眼点	意見
1	(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ものしりずかん」「ものしりノート」が単元ごとに設定されている。図表に照らし合わせて作品を作ったり、生き物について調べたりと主体的に学ぶことができるよう、よく工夫された内容となっている。また、内容を発展的に扱うこともできる。（下 P52）</li> <li>○巻末の「まなびかたずかん」で、学ぶ力をつけるための、「わざ」として、生活科の学び方を分かりやすく提示できるようによく工夫された構成になっている。（上 P125～136、下 P113～118）</li> <li>○単元の終末で、関わった相手へ手紙を書いたり、自分の活動を作文にしたりする活動が提示されており、自分の言葉で学びの足跡が残せるように、よく工夫された構成になっている。</li> </ul>
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「こんな3年生になりたいな」（下 P112）、「1年かかんがばったよ」（上 P124）など、次の学年への願いを持たせている。</li> <li>○学年末の単元「わたしたんけん」で一年間を振り返り、できるようになった自分に自信をつけるとともに、次の学年への目標や願いを持たせるような構成になっている。（下 P98～112）</li> </ul>
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きのページで、1つの活動を示し、「願いを持つ」→「主体的・対話的な活動」→「伝え合う」→「振り返る」→「次の活動へつなげる」のサイクルで、1単位時間及び、単元の学びを深めていく構成になっている。</li> <li>○活動に取り組んだ自分を「どんなきもちか」「じぶんのきろく」等で表現し、自己評価につなげている。</li> </ul>
2	(1) ふるさとへの誇りと愛着を育む、ふるさと教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ものしりのうと」では、昔から親しまれている遊びをイラストで分かりやすく説明しており、学級遊びや異学年交流の時に取り入れやすいように工夫されている。（上 P58・59）</li> </ul>
	(2) ICT を活用した学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT の活用について取り上げており、注意点や撮影時のポイントについて書かれている。（上 P135）</li> </ul>
	(3) 多様な学びを支援する教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○車椅子児童が活動する様子をイラストで表しており、どの子も学習に意欲的に参加していることができるように配慮されている。</li> </ul>
3	(1) 教科書の厚み、重量	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見やすく適度な重さである。</li> <li>○厚み、重量ともに児童への負担がすくない</li> </ul>
	(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総ルビである。</li> <li>○小単元名、手洗い指示等を同じ位置に配置している。</li> <li>○目次に、学ぶ時期と期間を表す、月の目盛りを掲載している。</li> </ul>
	(3) 上記以外の使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動を助け、広げる「ものしりノート」を掲載している。</li> <li>○上下巻末に「まなびかたずかん」を掲載している。</li> </ul>

教科	種目	<b>意見書</b>	発行者
生活	生活		教育出版

	着眼点	意見
1	(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○早い段階で手洗いや廊下歩行、生活の約束などが紹介されていることで、児童が安全に学習に向かえる工夫がよくされている。（上 P13）</li> <li>○各単元において、ページごとに「考える」「気付く」「伝える」に分類されており、児童の思考がまとまりやすい工夫がよくされている。</li> <li>○新しい発見やもっと知りたくなったことを直接教科書に書き込めたりモデルを提示したりする構成によって自身の学びや変容を残しやすいよう工夫されている。（下 P32・33）</li> <li>○「もしも1年まえのじぶんとあえるかがみがあったら」で、立ち止まって自分の成長・学びを振り返る1つの手だてがよく工夫されている。（上 P116）</li> </ul>
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びのポケット」で、生活科での学びが他教科につながる工夫がされている。（上 P117～・下 P109～）</li> <li>○下段の入学前から行っていることがイラストで分かりやすく説明されている。（上 P4・5）</li> </ul>
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元に「わくわくスイッチ」があり、自分がどんなことを学んでいけるとよいか主体的に活動計画を立てられるように工夫されている。</li> <li>○つたえたい方法を選択できる工夫がされており、主体的に表現活動ができるようになっている。（上 P36）</li> </ul>
2	(1) ふるさとへの誇りと愛着を育む、ふるさと教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の行事や季節の行事等のページに動画のQRコードがあり、行事に関わる人達の説明を聞くことができ、行事に興味をもてるよう工夫されている。</li> </ul>
	(2) ICT を活用した学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○上の巻末に「コンピュータをつかうとき」が見開きで示されており、多様な情報機器や様々な活用方法が分かるように工夫された内容となっている。</li> </ul>
	(3) 多様な学びを支援する教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○屋外の活動で車椅子の児童の様子が取り上げられており、どの子どもも活動しやすいよう配慮されている。</li> </ul>
3	(1) 教科書の厚み、重量	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見やすく適度な重さである。</li> <li>○厚み、重量ともに児童の負担にならないように、分量についてもよく配慮されている。</li> </ul>
	(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○①気付く②自分でできる③考える④伝える⑤挑戦する⑥自信をもつ の6つの力で単元を構成している。</li> </ul>
	(3) 上記以外の使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元扉に、動機づけとなる「わくわくスイッチ」を掲載している。</li> <li>○上下巻末に、生活上必要な習慣や技能等をまとめた「学びのポケット」を掲載している。</li> </ul>

教科	種目	<b>意見書</b>	発行者
生活	生活		信州教育出版社

	着眼点	意見
1	(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	○吹き出しや表情豊かな挿絵などで子どもの願いや意識の高まりを促し、学びの深まりや広がりを目指す単元の展開となっている。
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	○動物飼育や野菜の栽培を継続的に行う学習を位置づけ、生活科や理科を始め、各教科への発展性を期待する内容となっている。
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	○地域に根差した人・もの・こととの関わりや交流を通して、「次はこんなことをしたい」という願いを仲間通して話し合いを通して進めていく展開になっている。
2	(1) ふるさとへの誇りと愛着を育む、ふるさと教育の推進	○「たんごのせつく」「せつぶん」など、季節の変化と関わりのある行事に込められた人々の願いや思いを調べることができるようになっている。
	(2) ICT を活用した学習活動の充実	○教科書の内容と関連する動物や植物、活動例等を閲覧できるURL・二次元コードを巻頭に設けている。
	(3) 多様な学びを支援する教育の充実	○活動を支える教師の動きが分かるように、挿絵の中に教師の様子も描きこんでいる。
3	(1) 教科書の厚み、重量	○厚み、重量ともに児童の負担にならない。
	(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	○A B判であり、見やすく適度な重さである。
	(3) 上記以外の使用上の便宜	○単元を象徴する挿絵を各単元の扉ページいっぱいに掲載して、児童や教師に学習のイメージを膨らませる内容となっている。

教科	種目	<b>意見書</b>	発行者
生活	生活		光村図書

	着眼点	意見
1	(1)資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ヨシタケシンスケさんの「こんなことあるかも」コーナーで、失敗しても大丈夫、人と違っていい、教科書通りでなくても平気なことを繰り返し伝えており、一人一人が安心して追及できる。</li> <li>○「はるのなかまたち」（他、なつ、あき、ふゆ）が巻末に厚紙でついている。季節に合わせて身の回りの昆虫や植物を調べる資料として年間を通して活用できる。</li> <li>○「ひろがるせいかつじてん」も、巻末に厚紙でついている。年間を通して、生活感のある学び方を定着させたり、振り返ったりすることができる。</li> </ul>
	(2)各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「わたしできるよ」では、保育園、幼稚園での育ちを大切にしつつ、生活の学びにつなげている。（上 P16・17）</li> <li>○単元の終末では、「楽しい毎日につなげよう」という提示があり、自分の普段の生活で生かすためのヒントとなっている。</li> <li>○巻末にはそれぞれの1年間の振り返りがあり、どちらも、次の学年への願いをもてるようになっている。（上 P108 下 P96）</li> <li>○「3年生の学しゅうをのぞいてみよう」があり、生活科と3年生の学習をつないでいる。（下 P97）</li> </ul>
	(3)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分もやってみたいと思える写真、対話的な絵図を使い、児童が主体的な対話のイメージができる。</li> <li>○見開きごとに、どんな気持ちになったかと、生活科の視点「みつける」「くらべる」「たとえる」等を振り返ることができ、自己評価することができる。</li> <li>○主体的に個別最適な学びができるように「学習の流れ」と資料をそれぞれ、本編と資料編に分けて分かりやすく調べやすくしている。</li> </ul>
2	(1)ふるさとへの誇りと愛着を育む、ふるさと教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の行事や遊びを実際の場所の写真を用いて紹介していることで、さらにその場所について興味を持つことができるようによく工夫されている。</li> <li>○単元が始まるごとに保護者あてに学習のねらいを記していることで、学校と家庭が連携して取り組めるようによく配慮されている。</li> </ul>
	(2)ICT を活用した学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末の事典内の「タブレットやデジタルカメラのつかいかた」では、ICT を活用する上でのポイントや注意点が明確化されており、いつでもどこでも見返して学習できるようよく工夫されている。</li> <li>○どの学習活動においても ICT を活用した様子が取り上げられており、積極的に活用できるようよく配慮されている。</li> </ul>
	(3)多様な学びを支援する教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○車椅子や外国人児童が積極的に発言したり学習に参加したりしている場面を多く取り上げ、どの子も意欲的に学習できるようよく配慮されている。</li> <li>○園児と関わる学習の場面で様子の写真を多くのせてあり、どのようにすれば仲良く遊べるか考えやすいようによく工夫されている。</li> </ul>
3	(1)教科書の厚み、重量	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見やすく適度な重さ。</li> <li>○厚み、重量ともに児童の負担にならない。</li> </ul>
	(2)文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小単元名、ヒント、振り返りの視点を同じ位置に配置している。</li> <li>○学習ノートなどを太枠で強調している。</li> <li>○全ての挿絵を同じ作家が描いているので、一貫性があり、より見やすいように工夫されている。</li> </ul>
	(3)上記以外の使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末に「ひろがるせいかつじてん」を掲載している。</li> <li>○各ページに一人一人が安心して学びを進めていけるように「こんなことはあったかな」を記載し、よく工夫された内容となっている。</li> </ul>

教科	種目	<b>意見書</b>	発行者
生活	生活		啓林館

	着眼点	意見
1	(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○上段で「学びのヒント」があることで、あいさつの仕方を意識できるよう工夫されている。（上 P9）</li> <li>○上段の「気をつけよう」で、写真や QR コードがあることで、探検に行く際の安全が考慮されている。（上 P17）</li> <li>○ピンクの吹き出しで、児童が思考するためのヒントが提示されていることで、児童が考えをもつ手助けとなる工夫がされている。（上 P24・25）</li> </ul>
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「すたあとぶっく」があり、幼児教育との連携が図られている。（上 P1～16）</li> <li>○下巻末に「3年生へのステップブック」があることで、生活科での学びが他教科に繋がっていくよう工夫されている。</li> </ul>
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気づきの質を高めるために、「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階で学習活動が構成されている。特に「いきいき」では、直接体験の活動が位置付けられていて学びの質を高める工夫がされている。</li> <li>○自分の学びを表現する具体的な表現活動（新聞・絵日記）が紹介されていて、児童が分かりやすく取り組むことができる工夫がされている。（下 P54・55）</li> </ul>
2	(1) ふるさとへの誇りと愛着を育む、ふるさと教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元末に「いえの人にもつたえよう」と示してある時があり、家庭でも学習を広げられるよう工夫されている。</li> </ul>
	(2) ICT を活用した学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タブレットマナーを随所に取り入れ、ICT を活用する上での注意点を意識できるよう工夫されている。</li> </ul>
	(3) 多様な学びを支援する教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「わくわくタイム」では、児童によって1日の流れが異なるということを明確にしめし、多様な家庭環境があることを理解できるように工夫された内容となっている。（上 P86）</li> </ul>
3	(1) 教科書の厚み、重量	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見やすく、軽いため持ち運びが楽である。</li> <li>○厚み、重量ともに児童への負担が少ないように、分量についてもよく配慮されている。</li> </ul>
	(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総ルビである。</li> <li>○小単元名、ヒント、安全指導、「次の活動に誘う言葉」等を同じ位置に配置している。</li> <li>○「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階で単元を構成している。</li> </ul>
	(3) 上記以外の使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○上下巻末に、生活上必要な習慣や技能等をまとめた「がくしゅうずかん」を掲載している。</li> </ul>